

防災対策

平成16年発生災害について

国土交通省河川局防災課 課長補佐 さとう 佐藤 ふみやす 文泰

平成16年に発生した災害による、公共土木施設（国土交通省所管）の被害状況については、国土交通省が管理する施設（以下「直轄」という）で約1,656億円（868カ所）、都道府県（市町村含む）が管理する施設（以下「補助」という）で約9,509億円（52,262カ所）、合計約11,165億円（53,130カ所）が報告されました。

主な災害原因としては、1月から2月にかけて北海道、東北、北陸の日本海側を中心に被害をもたらした冬期風浪、6月の台風第4号・第6号、7月の新潟県、福島県を中心とした梅雨前線豪雨、福井県を中心とした梅雨前線に伴う集中豪雨、7月から8月にかけての台風第10号・第11号・第15号・第16号、9月の台風第18号・第21号、10月の台風第22号・第23号、10月23日に発生しその後も余震の続いた新潟県中越地震などにより、全国各地で尊い人命と貴重な財産が失われるなど甚大な被害が発生しました。

それら災害発生時には、被害軽減等のための水防団（消防団）の活動や、地元建設業界等の協力ならびに、復旧・復興支援として国・地方公共団体、民間の各種団体等からの要員・資機材派遣等により、被災地の復興に対する大きな礎となりました。

まもなく1年を迎える新潟・福島豪雨の現地では、再度災害防止の観点からの災害復旧事業も、

地元と一体となって始まるなど、事業の早期完成が待たれるところです。

また、新潟県中越地震により全村避難を余儀なくされた山古志村（現：長岡市）においても、雪が消えた現在、本格的な復旧・復興に向け、順次復旧工事が進められています。

平成16年発生 of 主な災害の概要について以下に紹介します。

1. 新潟・福島豪雨（写真 1, 2）

7月12日夜から13日にかけて、日本海から東南北部に停滞する梅雨前線の活動が活発化し、新潟・福島の両県で豪雨となりました。特に13日朝から昼過ぎにかけて、新潟県長岡地域・三条地域を中心に非常に激しい雨が降り、13日の日降水量は、新潟県栃尾市で421mmに達するなど、長岡・三条地域の一带でこれまでの最大日降水量の記録を上回りました。また、16日から再び梅雨前線の活動が活発化し、18日朝にかけて断続的に強い雨が降り、16日～18日の3日間での総降水量は新潟、福島県内の多いところで290mmに達しました。

この豪雨による河川の洪水・氾濫により、死者16名、負傷者4名、住家全壊70棟、半壊5,354棟、



写真 1 新潟県三条市浸水状況



写真 2 新潟県中之島町浸水状況

一部損壊94棟，床上浸水2,149棟，床下浸水6,208棟の被害が発生しました。

また，国交省所管の公共土木施設については，新潟県で2,024カ所，約866億円，福島県で592カ所，約87億円の被害が報告されました（直轄，補助計）。

2. 福井豪雨（写真 3，4）

7月17日夜から18日にかけて，活発な梅雨前線が北陸地方をゆっくりと南下したのに伴い，福井県や岐阜県で大雨となりました。特に，18日朝から昼前にかけて福井県で非常に激しい雨が降り，美山町では1時間に96mmの猛烈な雨が降り，総降水量は7月の月降水量の平年値（236.7mm）を上回る285mmとなりました。

この豪雨による河川の洪水・氾濫により，死者4名，行方不明者1名，負傷者19名，住家全壊66

棟，半壊135棟，一部損壊229棟，床上浸水4,052棟，床下浸水9,674棟の被害が発生しました。

また，国交省所管の公共土木施設については，福井県で969カ所，約378億円の被害が報告されました（直轄，補助計）。

3. 台風第10号・第11号

（写真 5，6）

台風第10号は7月31日16時過ぎに強い勢力のまま高知県西部に上陸し，徳島県・高知県および愛媛県で断続的に激しい雨を降らせ，徳島県神山町の総降水量は1,243mmに達しました。また，台風第11号は8月5日6時に能登半島沖の日本海で熱帯低気圧に変わるまで，近畿地方から岐阜県にかけては，ところにより1時間に40mmを超える激しい雨を降らせました。

この二つの台風では，土砂災害や河川の洪水・氾濫等により，死者3名，負傷者19名，住家全壊



写真 3 足羽川破堤箇所



写真 4 第一足羽川橋梁流出（越美北線）



写真 5 地すべりおよび土石流災害
(徳島県木沢村大用知地区)



写真 8 道路災害
(岡山県玉野市：国道430号)



写真 6 浸水状況
(高知県伊野町：仁淀川水系宇治川)

12棟，半壊15棟，一部損壊65棟，床上浸水218棟，床下浸水2,420棟の被害が発生しました。

また，国交省所管の公共土木施設については，近畿・四国地方を中心に2,718カ所，約325億円の被害が報告されました（直轄，補助計）。

4. 台風第16号（写真 7，8）

台風第16号は，強い勢力を維持しながら，8月30日9時頃，鹿児島県串木野市付近に上陸し，宮崎県えびの市では800mmを超える大雨となるなど，九州地方および中国地方を縦断しながら北上



写真 7 浸水状況
(愛媛県大洲市)

し，日本海を通過後31日には北海道の苫小牧市に再上陸し，オホーツク海へ抜けました。

この台風により全国各地で，暴風・高潮・浸水などの被害は，死者14名，行方不明者3名，負傷者267名，住家全壊29棟，半壊95棟，一部損壊7,037棟，床上浸水16,799棟，床下浸水29,767棟が発生しました。

また，国交省所管の公共土木施設については，中部から西日本地方を中心に，5,082カ所，約934億円の被害が報告されました（直轄，補助計）。

5. 台風第18号（写真 9，10）

9月7日長崎県長崎市付近に上陸して九州北部を横断し，日本海を北東に進み8日朝には北海道西海上に至りました。この台風の特徴としては，最大瞬間風速50m/s以上の猛烈な風で，多くの地点で強風の記録を更新しました。また，九州では900mmを超える大雨を降らせるとともに，瀬戸内海沿岸，西日本から北日本にかけての日本海側沿岸などで高潮による被害が発生しました。



写真 9 波浪災害
(広島県呉市広小坪：一般県道)



写真 10 波浪災害
(北海道神恵内村：国道229号)

この台風による土砂災害や河川の増水等により、死者41名、行方不明者4名、負傷者1,301名、住家全壊109棟、半壊848棟、一部損壊42,183棟、床上浸水1,598棟、床下浸水6,762棟の被害が発生しました。

また、国交省所管の公共土木施設については、北海道・中国・四国・九州地方を中心に2,692カ所、約589億円の被害が報告されました(直轄、補助計)。

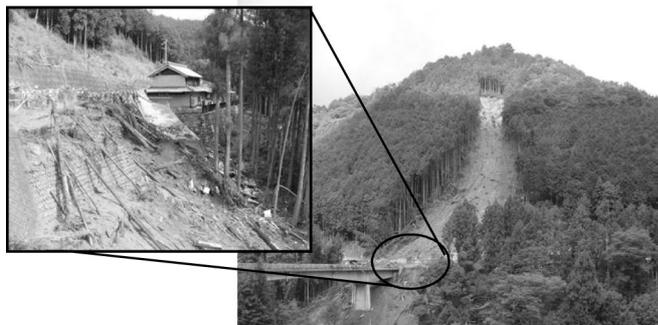


写真 11 土砂災害
(三重県多気郡宮川村小滝地先)

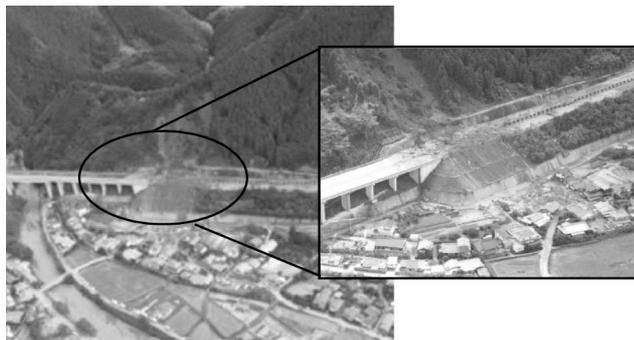


写真 12 土砂災害
(愛媛県新居浜市大生院地先)

6. 台風第21号 (写真 11, 12)

9月29日鹿児島県串木野市付近に上陸し、その後高知県宿毛市付近に再上陸した後、20時半頃、大阪市付近に再上陸し、北陸、東北地方を通過し、30日三陸沖に抜けました。

三重県宮川村では139mmの猛烈な雨となり、総雨量では尾鷲市で900mmを超えたほか、四国、近畿地方で400mmを超える大雨を降らせました。

この台風による土砂災害や河川の増水等により、死者26名、行方不明者1名、負傷者97名、住家全壊79棟、半壊273棟、一部損壊1,936棟、床上浸水5,798棟、床下浸水13,883棟の被害が発生しました。

また、国交省所管の公共土木施設については、東北、中部からの西日本地方を中心に、6,918カ所、約993億円の被害が報告されました(直轄、補助計)。

7. 台風第22号 (写真 13, 14)

台風第22号は、10月9日16時頃強い勢力を維持したまま静岡県伊豆半島に上陸し、その後、関東地方を通過して9日夜には鹿島灘へ抜けました。

各地で総雨量が300~400mmの大雨となり、東北・関東・中部地方を中心に暴風・高潮・浸水などにより、死者7名、行方不明者2名、負傷者166名、住家全壊135棟、半壊287棟、一部損壊4,508棟、床上浸水1,561棟、床下浸水5,485棟の被害が発生しました。

また、国交省所管の公共土木施設については、東北・関東・中部地方を中心に、1,974カ所、約404億円の被害が報告されました(直轄、補助計)。



写真 13 浸水状況
(東京都港区)



写真 14 浸水状況
(千葉県夷隅町)

8. 台風第23号 (写真 15, 16)

10月20日大型の強い勢力で高知県土佐清水市付近に上陸した後、大阪府和泉佐野市付近に再上

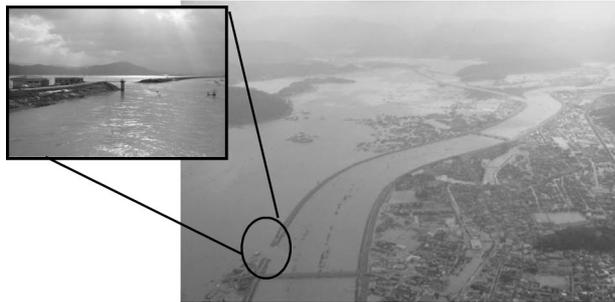


写真 15 浸水状況 (兵庫県豊岡市：円山川)



写真 16 海岸災害 (高知県室戸市：菜生海岸)

陸し、東日本を横断して21日関東の東海上で温帯低気圧となりました。

台風の影響による総降水量は、四国地方や大分県で500mmを超えたほか、近畿北部や東海、甲信地方で300mmを超える大雨となりました。

この台風により、全国各地で土砂災害や河川の洪水・氾濫が発生し、死者95名、行方不明者3名、負傷者552名、住家全壊893棟、半壊7,764棟、一部損壊10,841棟、床上浸水14,330棟、床下浸水41,228棟の被害が発生しました。

また、国交省所管の公共土木施設については、東北から西日本地方にかけて、19,869カ所、約3,122億円の被害が報告されました(直轄、補助計)。

9. 新潟県中越地震 (写真 17~19)

10月23日17時56分頃、新潟県中越地方でマグニチュード6.8(暫定値)の地震が発生し、新潟県の川口町で震度7、小千谷市、小国町、山古志村で震度6強を観測したほか、新潟県の各地で震度6弱、東北地方から近畿地方にかけて震度1から5強を観測しました。その後の余震(12月28日まで)で、震度5弱以上を観測した地震は19回、有感回数は877回を記録しました。

この地震により、山腹崩壊や地盤災害が相次ぎ、道路等の寸断により山古志村のほか、多数の孤立集落が発生し、死者40名、負傷者4,661名、住家全壊2,802棟、半壊11,971棟、一部損壊94,130棟、建物火災9件の被害が発生しました。

また、国交省所管の公共土木施設については、新潟県を中心に3,904カ所、約2,273億円の被害が報告されました(直轄、補助計)。

*一般被害は消防庁調べ

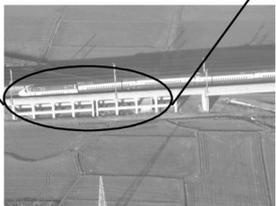


写真 17 脱線事故
(上越新幹線「とき325号」)



写真 18 道路災害
(長岡市宮路：国道351号)

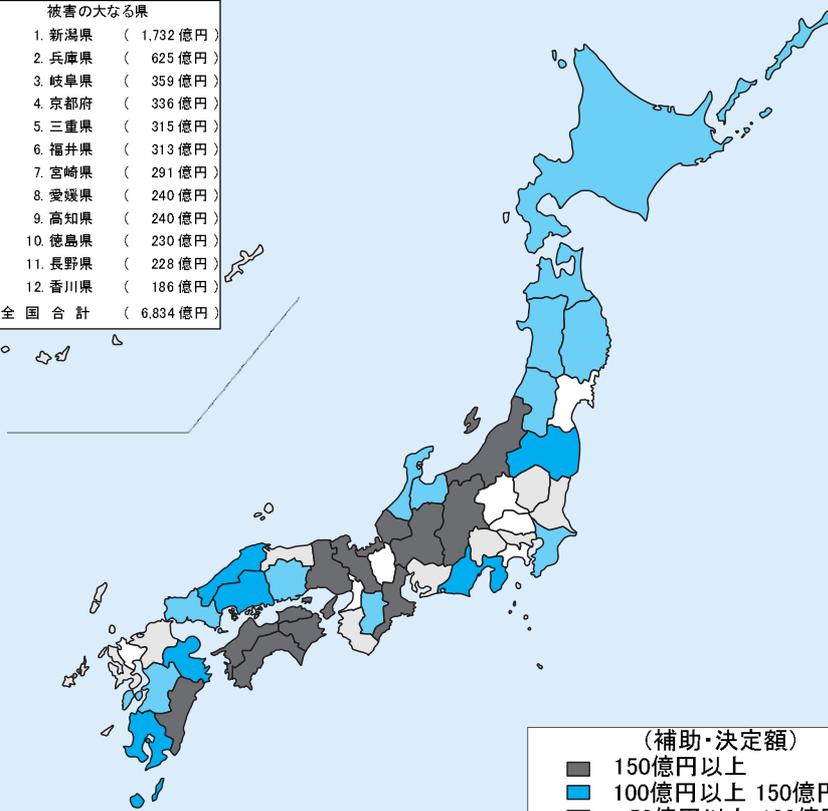


写真 19 土砂災害
(新潟県山古志村)

被害の大なる県

1. 新潟県 (1,732 億円)
2. 兵庫県 (625 億円)
3. 岐阜県 (359 億円)
4. 京都府 (336 億円)
5. 三重県 (315 億円)
6. 福井県 (313 億円)
7. 宮崎県 (291 億円)
8. 愛媛県 (240 億円)
9. 高知県 (240 億円)
10. 徳島県 (230 億円)
11. 長野県 (228 億円)
12. 香川県 (186 億円)

全国合計 (6,834 億円)



(補助・決定額)

- 150億円以上
- 100億円以上 150億円未満
- 50億円以上 100億円未満
- 10億円以上 50億円未満
- 10億円未満

過去5過年被害の大なる県

	平成 11 年	平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年
1.	岩手県 (380 億円)	北海道 (196 億円)	岩手県 (294 億円)	岩手県 (310 億円)	北海道 (515 億円)
2.	岐阜県 (359 億円)	愛知県 (191 億円)	福島県 (197 億円)	福島県 (244 億円)	高知県 (117 億円)
3.	広島県 (273 億円)	岐阜県 (136 億円)	高知県 (197 億円)	岐阜県 (109 億円)	福岡県 (112 億円)
4.	長野県 (256 億円)	新潟県 (136 億円)	北海道 (180 億円)	栃木県 (99 億円)	静岡県 (87 億円)
5.	山口県 (232 億円)	東京都 (129 億円)	栃木県 (136 億円)	新潟県 (95 億円)	宮城県 (76 億円)
6.	熊本県 (184 億円)	長野県 (125 億円)	青森県 (124 億円)	宮城県 (69 億円)	宮崎県 (66 億円)
7.	青森県 (160 億円)	鳥取県 (124 億円)	宮城県 (111 億円)	高知県 (68 億円)	熊本県 (65 億円)
8.	高知県 (147 億円)	鹿児島県 (77 億円)	秋田県 (106 億円)	青森県 (67 億円)	和歌山県 (51 億円)
9.	北海道 (135 億円)	高知県 (72 億円)	群馬県 (105 億円)	静岡県 (66 億円)	長崎県 (41 億円)
10.	宮崎県 (135 億円)	静岡県 (62 億円)	長野県 (89 億円)	北海道 (58 億円)	長崎県 (41 億円)
全国合計	(3,833 億円)	(1,971 億円)	(2,625 億円)	(1,752 億円)	(1,682 億円)

図 1 平成16年災害の都道府県別決定額分布図